

紅野敏郎

近代日本文學史

本人出版社

早稲田大学出版部

紅野敏郎（こうの・としろう）

1922年、兵庫県西宮市に生れる。復員後、1952年早稲田大学国文科卒。現在、早稲田大学教授、日本近代文学館常務理事。主な著書に『増補新編 文学史の園－1910年代－』『昭和文学の水脈』『白樺の本◇文学史の林』など。編著書に『「或る女」を読む』『「暗夜行路」を読む』『「土」を読む』『論考谷崎潤一郎』『論考徳田秋声』『大正文学アルバム』『志賀直哉アルバム』『読売文芸欄細目』（上下）。『志賀直哉全集』『白秋全集』『正宗白鳥全集』『日本近代文学大事典』などの編集推進。現在は小学館版『武者小路実篤全集』編集推進中。

近代日本文学誌—本・人・出版社—

1988年10月21日 初版第1刷発行

検印省略	著 者 紅 野 敏 郎
	発行者 奥 島 孝 康
	発行所 早稲田大学出版部
	〒169 東京都新宿区戸塚町1-103 振替東京3-1123 電話(03)203-1551
	印刷所 日本ハイコム株式会社
	平文社
	製本所 牧製本

©1988 紅野敏郎

ISBN4-657-88036-5

近代日本文学誌
目次

I

文学誌逍遙——明治(一) 3

柳田泉と柳田甫——『梅清集』——(私家版) 3

逍遙・鷗外・露伴・紅葉・美妙らと「国民之友」——『国民小説』(第二)——(民友社) 6

抱月・宙外ら稲門文科二期生——『同窓紀念録』——(私家版) 10

坪内逍遙の秘蔵弟子——『杉谷代水選集』——(富山房) 19

二葉亭没後の英訳本——『其面影』——(英語研究社) 22

二葉亭没後の翻訳本二冊——『血笑記』『片窓外六篇』——(易風社・靑山書店・春陽堂) 26

内田魯庵・笹川臨風らと「松坂屋」——『下谷上野』——(松坂屋) 29

「万朝報」記者落合浪雄——『善悪小説著作法』——(大学館) 33

鷗外と日露戦争——『うた日記』——(春陽堂) 36

明治四十年代の矢野龍溪——『龍溪隨筆』——(東亜堂書房) 42

小金井喜美子の歌集——『泡沫千首』——(私家版) 45

角田柳作と幸田露伴——『井原西鶴』——(民友社) 49

評論家「緒方流水」の位置——『塵影録』——(新声社) 52

松崎天民の民友社・小使時代と内山愚童——『ペン尖と足跡』——(泰文社) 55

- 松崎天民の再評価——『淪落の女』——（磯部甲陽堂） 59
- 馬場孤蝶の漫言——『野守草』『連翹』——（新声社・久友社） 62
- 平田禿木・「文学界」同人を偲ぶ——『雙龍硯』——（七丈書院） 65
- 平田禿木と福原麟太郎——『平田禿木追憶』——（私家版） 68
- 与謝野寛の名歌選集——『灰の音』——（植竹書院） 71
- 牧水『独り歌へる』と晶子『みだれ髪』の原稿その後は……——『歌壇風聞記』——（名古屋書房） 75
- 木下全太郎の序文と晶子の歌——『旅の歌』——（日本評論社出版部） 78
- 村岡典嗣と歌——『つねつぐ歌集』——（私家版） 81
- 司馬江漢・与謝野夫妻・正宗敦夫——『江漢西游日記』——（日本古典全集刊行会） 84
- 斎藤緑雨の袖珍判遺稿集——『緑雨遺稿』——（木下出版商社） 88
- 真下飛泉（一）・「戦友」の作詞者——『飛泉抄』——（私家版） 91
- 真下飛泉（二）・満州・相馬御風・実業・教育——『飛泉抄』——（私家版） 95
- 有柳有美と藤村の「序」——『八円旅行』——（新声社） 99
- 登張竹風の語り上手——『遊戲三昧』——（山本書店） 102
- 長田秋濤と中村光夫——『椿姫』——（早稲田大学出版部） 106
- 正宗白鳥の少年時代——『閑谷養生徒人名簿』——（閑谷堂） 109
- 正宗白鳥「読売」記者時代——『文科学生々活』——（古今堂書店） 112
- 火鞭会メンバーのその後——『あゝ島中雄三君』——（中央公論社） 117

文学誌逍遙——明治(二) 121

- 初期佐藤紅緑の一面——『紅緑日記』——(読売新聞日就社) 121
- 幸田露伴と漱石の『猫』——『滑稽談』——(河出書房) 124
- 露伴門下神谷鶴伴・中谷無涯・田村俊子らの「短詩」の試み——『はつしほ』——(泰山堂) 128
- 漱石と敏の序文——『草雲雀』——(服部書店) 132
- 玄耳・子規・漱石・啄木——『渋川玄耳句集』——(青潮社) 135
- 漱石本の一冊——『四篇』——(春陽堂) 139
- 漱石・秋声・飯田政良(青涼)——『女の夢』——(事業之日本社出版部) 145
- 西川一草亭と漱石——『落花帯記』——(河原書店) 148
- 津田青楓と河上肇・漱石・「白樺」の人びと——『寄せ鍋』——(楽浪書院) 152
- 高浜虚子の序文——『不孝者』——(天青堂) 155
- 鏡花・草平・百穂の序——『デモ画集』——(如山堂) 159
- 森田草平——三冊の『吉良家の人々』——(改造社・春陽堂・彰考書院新社) 162
- 空穂の周辺・松村英一・植松寿樹らの合同歌集——『白露集』——(文芸社) 165
- 窪田空穂の小品文集——『旅人』——(忠誠堂出版部) 169
- 中島銈子・空穂・利玄——『棕栢の花』——(矢口書店) 172
- 手八丁口八丁の高嶋米峰——『米峰回顧談』——(学風書院) 175

岩野泡鳴の編集本――『山本露滴遺稿』――（私家版）	179
泡鳴本・エッセンスシリーズの一冊――『モナワナ』――（青年学芸社）	183
花袋の本――『哥薩克兵』『近作十五篇』『海の上』――（博文館・金星堂）	186
徳田秋声らの「現代文芸叢書」――『我子の家』――（春陽堂）	189
秋声本の「なかじぎり」――『小品文作法』――（止善堂書店）	192
秋声周辺人物の本――『神の火を盗んだ女』――（紫書房）	195
近松秋江の小品・紀行文集――『青葉若葉』――（新潮社）	197
正宗白鳥らの「名作叢書」――『人さまざま』――（金星堂）	200
正宗白鳥と「近代名著文庫」――『三階の窓』――（南天堂書房）	203
白鳥の生臭いつぶやきの束――『文壇観測』――（人文会出版部）	206
片上伸・露文科開設前夜――『ロシヤの現実』――（至文堂）	209
相馬御風とその妻――『人間最後の姿』――（春陽堂）	212
中村星湖の『多情多恨』評――『尾崎紅葉氏の多情多恨』――（名著評論社）	216
前田晁の小品文集――『途上』――（忠誠堂）	218
守田有秋・ジャーナリストの作家論――『自然と人』――（博盛堂）	221
生田長江・「現代百科文庫」の一冊――『芸術家と芸人』――（日月社）	224
生方敏郎・野性的ユーモリストの文集――『敏郎集』――（植竹書院）	227
生方敏郎と本間久雄――『オスカアワイルド警句集』――（新潮社）	231

木下李太郎と鈴木三重吉——『穀倉』——（鈴木三重吉方） 234

II

文学誌逍遙——大正(一) 241

初期谷崎の周辺人物——『旧道』——（献文堂） 241

谷崎潤一郎の本と挿絵——『人魚の嘆き』——（春陽堂） 244

谷崎潤一郎と上山草人——『素顔のハリウッド』——（実業之日本社） 247

岡田時彦と谷崎潤一郎——『秋満保魯志草紙』——（前衛書房） 251

戦後の潤一郎——『磯田多佳女のこと』——『京の夢大阪の夢』——（全国書房・日本交通公社出版部） 254

谷崎潤一郎の編集本——『撫山翁しのぶ草』——（中央公論事業出版） 265

「新思潮」メンバー後藤末雄の句集——『柳絮』——（私家版） 268

吉井勇の戯曲集——『午後三時』——（東雲堂書店） 272

吉井勇の自由劇場時代——『洛北隨筆』——（甲鳥書林） 278

吉井勇・竹久夢二のコンビ——『新訳伊勢物語』——（阿蘭陀書房） 282

武者小路全集・初版本の意義——『世間知らず』——（洛陽堂） 285

武者小路実篤——『或る青年の夢』前後——（洛陽堂） 288

武者小路と岸田劉生——『カチカチ山と花咲爺』——（阿蘭陀書房） 293

- 武者小路全集の「内容見本」——『武者小路実篤全集』——（芸術社） 297
- 武者小路の二つの全集——『彼の青年時代』——（小学館・新潮社） 301
- 「新しき村」と吉井勇——『晝鐘』——（近代文芸社） 304
- 志賀直哉の第一創作集——『留女』——（洛陽堂） 307
- 志賀直哉とバーナード・リーチ——『夜の光』——（新潮社） 313
- 志賀文学の中核——『増補 夜の光』と普及版『夜の光』——（新潮社） 317
- 志賀直哉・文庫本の個人全集——『志賀直哉全集』——（改造社） 320
- 志賀の周辺（一）・瀧井孝作と中戸川夫人——『春日』——（砂子屋書房） 324
- 志賀の周辺（二）・網野菊の「女流作家叢書」——『若い日』——（全国書房） 327
- 有島武郎のアルバムの発端——『最後の日記』——（改造社） 330
- 石山徹郎・有島武郎・武者小路実篤——『有島氏の歩いた道』——（新しき村出版部） 334
- 水野仙子と有島武郎——『水野仙子集』——（叢文閣） 337
- 堺利彦・有島武郎・市岡猛——『野性の呼声』——（叢文閣） 341
- 新島栄治と有島武郎——『湿地の火』『隣人』——（紅玉堂書店） 344
- 足助素一・有島武郎・中川一政——『足助素一集』——（私家版） 348
- 文庫本の「有島武郎小全集」——『旅する心その他』——（春陽堂） 351
- 戦後の有島武郎熱——『或る女』——（富岳本社） 354
- 有島武郎と中村光夫の「解説」——『惜みなく愛は奪ふ』『小さき者へ』——（光文社） 358

- 有島の「汎美文庫」の一冊——『石にひしがれた雑草』——（汎美社） 361
- 有島武郎と柳田泉——『わが空想よ、さらば』——（日本読書^{購買組合}） 364
- 有島武郎と志賀直哉の「少国民シリーズ」——『一房の葡萄』『三つの話』——（小学館） 368
- 有島武郎に私淑——『浦上后三郎遺稿集』——（私家版） 371
- 山田昭夫・まめほんの評伝——『木田金次郎』——（北海道テレビ社長室） 374
- 間島道彦と有島家の交わり——『若き科学者の随筆』——（新潮社） 378
- 有島行光（森雅之）ら子供たちの発言——『父の書斎』——（三省堂） 381
- 有島暁子さんの死——『有島暁子著作集』——（中央出版社） 384
- 里見弴の短編集——『慾』——（春陽堂） 387
- 里見弴の「随筆感想叢書」——『赤き机に凭りて』——（金星堂） 392
- 里見弴の戯曲集——『妬心』——（新潮社） 396
- 田村雨村（英十三）・里見弴・高野斑山（辰之）——『愛憂』——（町田書店） 400
- 里見弴・泉鏡花・喜多村緑郎——『喜多村緑郎追慕』——（演劇出版社） 403
- 柳宗悦と「白樺」——『科学と人生』——（靑山書店） 407
- 長与善郎・「白樺」正統派の発言——『生活覚え書』——（道統社） 410
- 長与善郎・木下利玄・岩淵兵七郎——『押し花』——（竹柏会） 413
- 利玄出発期の詩歌文集——『竹柏園集』第一編——（博文館） 416
- 利玄の第二歌集——四種の『紅玉』——（玄文社・紅玉堂書店） 419

文学誌逍遙——大正(二) 461

- 利玄旧蔵本と古河力作との縁——『西洋草花』——(服部書店) 427
- 児島喜久雄と九鬼周造の詩歌——『巴里心景』——(甲鳥書林) 430
- 千家元麿の戯曲——『家出の前後』——(叢文閣) 434
- 宮崎丈二の第一詩集・武者小路・千家への献辞——『爽かな空』——(新制社) 436
- 木村莊八と「白樺」——『生活と美術』——(洛陽堂) 440
- 木村莊八ら・下町への愛着——『柳橋界限』——(東峰書房) 443
- 金井時子・「白樺」の一つの種——『涙の底から』『二すじの道』——(玄文社・私家版) 446
- 金井時子と「白樺」と山代巴——『二すじの道』——(私家版) 450
- 中川一政・永瀬義郎ら・美術史と文学史の接点——『画学生の頃』——(アトリエ社) 453
- 石井柏亭・森田恒友・坂本繁二郎ら——『現代諸家スケッチブック』——(阿蘭陀書房) 457
- 樋口麗陽・「青鞥」への反応——『新らしき女の裏面』——(岡村盛花堂・池村松陽堂) 461
- 平塚らいてうの「青鞥」と「青鞥」以後——『現代の男女へ』『女性の言葉』——(南北社・教文社) 464
- 岩野清子と泡鳴——『愛の争闘』——(米倉書店出版部) 468
- 田村俊子・「文明叢書」の一冊——『山吹の花』——(植竹書院) 471
- 本間国雄の趣味に徹した画文集——『東京の印象』——(南北社) 474
- 安成貞雄・江湖に浪吟す——『安成貞雄』——(私家版) 477

- 「一箇の貧しき詩人安成二郎」の短編集と隨筆集——『子を打つ』『白雲の宿』——（アルス・越後屋書房） 481
- 土岐善麿・霽日光風、草木欣々——『晴天手記』——（四条書房） 484
- 謎の死・大庭柯公——『柯公追悼文集』——（柯公全集刊行会） 488
- 関根正二の遺作展小冊子——『信仰の悲み』——（兜屋画堂） 491
- 広津和郎の翻訳——『女の一生』——（植竹書院） 494
- 広津和郎と「エルテル叢書」のカバー——『マノン・レスコオ』——（新潮社） 497
- チェーホフの翻訳家・秋庭俊彦の晩年——句集『果樹』——（美術雑誌社） 500
- 宇野浩二・初版本と「手帖文庫」——『心つくし』——（プラトン社・地平社） 503
- 宇野浩二・上林暁・水上勉の周辺——『蔵の中』——（文潮社） 507
- 宇野浩二と美術家——『回想の美術』——（東出版） 510
- 国枝史郎の「美」と「異常」の戯曲集——『黒い外套の男』——（文雅堂書店・弘学館書店） 516
- 加能作次郎の再評価——『世の中へ』——（新潮社） 520
- 水守亀之助の渋い味——『候虫時鳥』——（人文会出版部） 523
- 「山陰の作家」須藤鐘一——『鐘影集』——（鐘影集刊行会） 526
- 青木健作の晩年——『椎の実』——（子文書房） 530
- 豊島与志雄と「幻影」——『旅人の言』——（聚英閣） 533
- 豊島与志雄の童話集——『エミリアンの旅』——（春陽堂） 535
- 芥川龍之介・影の薄い本への愛着——『奇怪な再会』——（金星堂） 540

芥川龍之介の肉眼――『支那游記』『湖南の扇』――（改造社・文芸春秋社）	543
菊池寛の直言的エッセイ――『文芸春秋』――（金星堂）	548
芥川装幀の菊池寛の創作集――『我鬼』――（春陽堂）	551
谷崎精二・素木しづら新進作家の生活と芸術――『日記一年』――（新潮社）	556
「三田文学」の新人南部修太郎――『修道院の秋』――（新潮社）	559
勝本清一郎の戯曲――『三田文学選』――（高陽社）	562
石丸重治・三田文学ライブラリー――『回想の石丸重治』――（私家版）	566
佐藤春夫・「秋和の里」の遊び――『まゆみ抄』――（信修堂）	569
万太郎における父と子――『若い星』――（演劇出版社）	573
井汲清治と長谷川巳之吉――『ユウゴオ篇』――（第一書房）	576
竹内勝太郎の出発――『素描』――（私家版）	580
小川未明・「表現叢書」の一冊――『人間性のために』――（二松堂書店）	583
エロシエンコと秋田雨雀――『夜あけ前の歌』――（叢文閣）	586
坪田譲治・幼年の夢と望郷の思い――『班馬鳴く』――（主張社）	590
大正中期の本間久雄――『生活の芸術化』――（三徳社）	593
高群逸枝の歌――『妾薄命』――（金尾文淵堂）	596
金子洋文「新しき村」と「種蒔く人」――『生ける武者小路実篤』――（種蒔き社）	601
関東大震災前後・水島爾保布の絵と文――『痴語』――（金尾文淵堂）	604

- 鈴木泉三郎の秀作戯曲「生きてゐる小平次」——『火あぶり』——（プラトン社） 607
- 日本橋生れの長谷川時雨——『桃』——（中央公論社） 611
- 宇野千代らの出発・一九二三年版——最初の『文芸年鑑』——（二松堂書店） 614
- 生田花世・女流文芸史のはしり——『女流作家群像』——（行人社） 616
- 生田花世の第一創作集——『燃ゆる頭』——（中西書房） 618
- 横田文子・『女人芸術』から「日本浪漫派」へ——『二年間の手紙』——（生活感情社） 622
- 神近市子の小説と評論——『村の反逆者』『等しき義務、等しき自由』——（下出書店・求光閣） 625
- 青野季吉の小説——『ある時代の群像』——（日本評論社） 628
- 赤松月船と「近代名著文庫」——『芸術家の社会運動』——（近代名著文庫刊行会） 631
- 長田幹彦の「ラヂオドラマ叢書」——『悲しき遍歴外二篇』——（春陽堂） 634
- 千葉亀雄・「新感覚派」の名づけ親——『ペン縦横』——（岡倉書房） 637
- 横光利一・吉田謙吉装幀の戯曲集——『愛の挨拶』——（金星堂） 641
- 水島爾保布の諷刺——『新東京繁昌記附大阪繁昌記』——（日本評論社） 644

III

文学誌逍遙——昭和(一) 651

大宅壮一の「野蛮人」性——『モダン層とモダン相』——（大鳳閣） 651

- 鈴木氏亨・井東憲ら「週刊朝日」初期の好企画——『文壇の人舞台の人』——（聚英閣） 654
- 沢田正二郎の自伝——『苦闘の跡』——（柳蛙書房） 658
- 古書肆玄誠堂・芥川徳郎の歌集——『茅花』——（潮音社） 661
- 岸田門下の劇作家阪中丈夫の詩集——『六月は羽搏く』——（抒情詩社） 665
- 池谷信三郎・中村正常ら蝙蝠座の第一回公演上演台本——『ルル子』——（平凡社） 668
- 伊馬鶴平（春部）らムーラン・ルージュの花——『新喜劇叢書』——（西東書林） 671
- 金杉惇郎・「女だけの都」とアートル・コメディー『四季の劇場』——（沙羅書房） 675
- 田中貢太郎・土佐人の系譜——『桂月先生從遊記』——（二松堂書店） 678
- 田中貢太郎と井伏鱒二——『酒・散策・俳句』——（内外社） 682
- 田中貢太郎・井伏鱒二・尾崎士郎ら・酒に托した男子の風懷——『博浪沙 隨筆十五人』——（伊藤書店） 686
- 佐々木味津三の追悼集——『甘棠集』——（私家版） 689
- 三上於菟吉の出版社——『隨筆わが漂泊』——（サイレン社） 692
- 尾崎士郎らの「新選隨筆感想叢書」——『裸』——（金星堂） 695
- 田畑修一郎の編んだ本——『トロイの木馬』——（街の会） 698
- 「街」同人の詩人・ロシア文学者の中山省三郎——『海の星』——（私家版） 701
- 古泉千樫のエッセイ——『隨縁鈔』——（改造社） 705
- 杉山平助（氷川烈）の発言——『春風を斬る』——（大畑書店） 708
- 津村秀夫と信夫の父——『春秋割記』——（小山書店） 711

文学誌逍遙——昭和(二) 715

- 田辺茂一の評論集——『作品の印象』『轢軼』——(赤塚書房・昭森社) 715
- 円地文子・二つの『女坂』の一つ——『女坂』——(人文書院) 718
- 追悼・尾崎一雄——『わが生活 わが文学』——(池田書店) 721
- 浅見淵の随筆集——『蒙古の雲雀』——(赤塚書房) 725
- 都筑省吾・『微旨』を貫く——『夜風』——(砂子屋書房) 728
- 田畑修一郎の再評価——『蜥蜴の歌』——(墨水書房) 731
- 小田嶽夫・四十年前の自選短編集——『あたゝかい夜』——(人文書院) 734
- 野口富士男ら青年芸術派——『私たちの作品』——(豊国社) 738
- 小林達夫・井上孝・鈴木重雄ら戦時下の「新人」たち——『新進小説選集』——(赤塚書房) 741
- 渋川驍と棟方志功——『残照』——(生活社) 745
- 田宮虎彦の処女単行本・『赤門叢書』の一冊——『早春の女たち』——(赤門書房) 748
- 外村繁・『新ぐろりあ叢書』の一冊——『白い花の散る思ひ出』——(ぐろりあ・そさえて) 751
- 嶋中晨也遺稿——『ささやかな墓標』——(私家版) 755
- 上野俊介・横光利一周辺の人——『丹頂』——(私家版) 756
- 稲垣達郎・稲門ライブラリー——『角鹿の蟹』——(私家版) 760